

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	1194600282		
法人名	エフビー介護サービス株式会社		
事業所名	グループホームエフビー深谷		
所在地	埼玉県深谷市東方町2-15-3		
自己評価作成日	令和5年1月15日	評価結果市町村受理日	令和5年3月13日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（↓このURLをクリック）

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/11/index.php
----------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人 ケアマネージメントサポートセンター
所在地	埼玉県さいたま市中央区下落合五丁目10番5号
訪問調査日	令和5年2月7日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

入居者が人生の一部の時間を当施設に預けて下さったことに感謝し、理念である「求められるケアをさりげなく、楽しく、地域と共に」をモットーに、入居者様と職員が共に楽しい毎日を過ごせるよう前向きに取り組んでいます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

- ・コロナ禍の中でも「マスクの中は笑顔でね」をスローガンに、寄り添いと見守りを大切に利用者1人ひとりをよく観察することで、各人の生活のリズムを大切に。本人本位の個別ケアが継続されている。
- ・運営推進会議は、対面開催が困難となり、事業所の状況をまとめた報告書を会議のメンバーに届け、意見を伺い、議事録として纏められている。自治会長や民生委員の方と連携を図り、今後の対面開催への協力を依頼されている。
- ・目標達成計画については、年2回の避難訓練が実施され、ハザードマップにより水害の危険は無いことが確認され、災害種別に対応マニュアルが作成され、防災計画に取り組みられ、水や食料品等の備蓄も行われていることから、目標達成への取り組みが伺える。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践に近づけている	利用者様に寄り添い、見守り出来ることは積極的にして頂き生活の充実、体力維持等の意識を共有している。日々の申し送りや、職員会議などでケアを確認しながら統一した介護の実践に近づけている。	コロナ禍の中でも「マスクの中+F6:F27は笑顔でね」をスローガンに、寄り添いと見守りを大切に利用者1人ひとりをよく観察し、会議等で話し合うことで、個性や変化を共有し、各人の生活のリズムを大事に過剰介護を排した個別ケアが継続されている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍のため地域行事には参加できていない。	近隣の子供や障害者施設との交流、お祭りへの参加などが制限される中、近隣の散歩やドライブの折に挨拶を交わしたり、資源回収への協力が行われ、「GHエフビー深谷新聞」の送付やブログの発信と共に、地域との関係の継続に努められている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	コロナ禍のため地域行事への参加、運営推進会議等の開催が出来ない為書面での報告とエフビー深谷新聞などで活動状況を知って頂き理解していただけるよう努めている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ禍の為運営推進会議の開催はできないが、状況報告書やエフビー深谷新聞などを届け読んで頂いている。	運営推進会議は、対面開催が困難となり、事業所の状況をまとめた報告書を会議のメンバーに届け、意見等を伺い、議事録として纏められている。また、自治会長や民生委員の方と連携を図り、今後の対面開催への協力を依頼されている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	空き情報や困難事例の受け入れ要請などに関して協力関係が築かれ良好な関係になっている。	市の各担当窓口や大里広域圏組合とは、報告や手続き事項、相談などがメールやTELを中心に行われ、コロナ感染防止のための関連情報や空き室情報の共有も行われ、協力関係が維持されている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	「徹底して利用者様に付き合うこと」「楽しみを見つけて居場所を作ること」で、身体拘束をしないケアを実践している。また職員会議や研修に参加して勉強に励んでいる。	3カ月毎の身体拘束廃止委員会と年2回の職員研修が行われ、利用者の動きを制限することなく、「楽しみを見つけてあげること」と「居場所を見つけてあげること」を中心に、身体拘束を必要としないケアが実践されている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員会議やホーム内外の研修などで勉強して取り組んでいる。原因のわからないような傷・あざ等を見つけた時などは情報共有している。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	ホーム内での研修に参加し、活用できるように努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時だけでなく面会や電話連絡の時などに不安や疑問点などを尋ね理解を図っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族様と信頼関係を築いていけるように手書きの近況報告書とその月に撮った写真等を添えて郵送している。ブログや施設内の新聞においても情報を発信している。	利用者とは日々の触れ合いから、家族へは毎月写真入りの手紙を送付したり、ブログにより生活状況を発信することで、事業所での様子を知っていただき、意見や要望を話していただくことに繋げられ、それぞれを運営に活かされている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	飲みにケーション費として会社でもコミュニケーションを重視し、保証している。また職員会議だけでなく意見の言いやすい職場づくりを目指している。	上司からの積極的な声掛けや傾聴により、話し易い環境が作られ、会議前には事前アンケートを取り、職員の気付きや意見を議題として話合われている。また、「少人数飲みにケーション制度」も活かし、実習生の感想や意見も聴き取っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年間120日の休暇を掲げてくれ就業環境の改善策を考えてくれている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月一回の施設内での研修をしている。またコロナ禍なのでリモートでの研修も行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会に加入し合同での研修に参加していたがコロナ禍リモート研修に参加している。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前・入所時・入所後と常に本人の要望、意見思い等を聞き取り安心できる環境の構築に努めている。またできるだけ個別対応がとれるような職員体制をとり、利用者様の満足度向上を目指している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	面会の際に現況をお話させていただいたり、毎月手書きの近況報告書と写真を郵送しています。またブログを定期的に更新しているので見て頂いています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人、家族と話し合いながら望んでいる支援・介護に努めるようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	何事にも出来ることは自分でしていただけるよう支援している。洗濯干し・たたみや料理の下ごしらえ・掃除などの家事も一緒に行っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	コロナ禍の為面会は制限されているが、家族は来てくれている。また急病以外や提携病院以外の受診時などには家族対応で通院をして頂いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍前は友人知人の方が訪ねて来られ部屋でお話したり外出したりしていたが最近では面会制限がある為難しくなっている。	面会が制限される中、外部の部屋を準備し、なかなか会えない孫やひ孫に会ってもらうなどの工夫が図られたり、ドライブで、以前住まれていた近隣を訪ね、昔話を聴くなど、コロナ禍においても馴染みの関係が切れないように支援が行われている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者の性格・状態・好み等を把握しリビングでの座る場所を考えている。またドライブ等に行く際も気の合う方々と一緒にしたりと楽しくできるように努めている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後も職員が面会に行ったり相談等も必要に応じて行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者様一人一人に担当の職員がおりケアをさせて頂いている。知り得た情報等については職員会議や連絡ノート・朝のミーティング時において共有し統一したケアができるように努めている。	意思疎通の難しい利用者であっても、「出来ることは、かなえてあげたい」との気持ちを持って傾聴や観察に努め、1人ひとりが喜ばれることや楽しまれることを見つけ、職員間で共有することで、本人本位の支援に繋がられている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人・家族・知人・担当だったケアマネ等からこれまでの経過や生活環境を聞き把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の様子、気づき等は必ず職員間でタブレットや日誌に記した口頭での引継ぎで情報共有に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアマネを中心に全職員でのモニタリングを基に本人や家族の意向、協力医療機関や訪問看護師の意見も取り入れカンファレンスを行い、介護計画が作成されている。その後家族に分かりやすく説明している。職員も毎日介護計画に添ったケアができていないかチェックを行っている。	全職員によるモニタリングを基に、家族の要望や医師・看護師の意見や提案も得てカンファレンスが行われ、具体的で明確なサービス目標を含む介護計画が作成され、それぞれのサービス目標に向けた支援ができていないか確認されている。また、必要に応じた見直しも行われている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子等はタブレットや日誌に必ず入力し、重要な事は口頭で引継ぎ情報共有をしている。毎月一回職員会議の場で見直しが必要な事柄については話し合っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	できる限り個別のニーズに応じられるようにその日の日程は決めず、時間での決め事もアウトにし、職員が気兼ねなく柔軟に利用者に関われるように設定している。また職員配置も利用者に関わる人数を厚くして多様化に取り組んでいる。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ禍の為地域資源をうまく活用できていない		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	施設に往診に来る医師だけでなく、家族・本人の希望も取り入れて他の医療機関への受診も行っている。その際は家族のかたの協力も頂いている。	入居時に従来からのかかりつけ医と往診のある協力医療機関の選択の説明がなされ、従来からのかかりつけ医や専門医の受診は家族対応であるが、必要に応じて職員が付き添い、医師に利用者の正確な情報を伝えるなど、適切な受診支援が行われている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	常勤では看護師はいないが、訪問看護ステーションと提携しておりいつでも相談にのって頂き必要な時にはきてくれる。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	できるだけスムーズに医療が受けられるように医療機関の担当者と関係をつくっている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	往診にきてくれている病院からの終末期に向けた医療について各利用者の家族と書面での取り交わしをしている。また必要に応じて往診時ドクターから家族に状態を話して頂ける場を設けている。	入居時に、終末期に事業所ができることの説明が行われ、重度化の場合は、往診医師と訪問看護師の協力や家族の意向も得て話し合い、最適と思われる支援がなされている。また、看取りの実績や職員の考えや感情を話し合うことで、職員には心構えが出来ている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的な内部研修を行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身に付けるとともに、地域との協力体制を築いている	火災や地震について避難訓練を年2回実施している。防災グッズと水等の備蓄をしている。職員間のグループラインが有り情報を発信できる。	年2回の避難訓練が実施され、ハザードマップにより水害の危険は、無いことが確認されている。また、災害種別に対応マニュアルが作成されるなど、防災計画に取り組み、水や食料品等の備蓄も行われており、職員間のグループLINEにより、緊急時の連絡にも対応されている。	災害種別に対策が進められていますが、長時間の停電の場合はどうするか、実際に夜間に災害が生じた場合に、夜間想定訓練のように対応ができるのか、などの検証を含めた訓練が期待されます。

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者一人一人の人格を尊重し、「さりげないケア」を行うように努めている。本人の立場に立った声がけや行動に努めている。	トイレ介助や着替えなど、利用者が他人に「見られたくないこと」や「知られたくないこと」などの自尊心に関わることは、さり気ない介助により、尊厳が守られた支援が行われている。また、「親しき中にも礼儀あり」で、慣れによる言葉使いにも気を付けられている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者が話しかけやすい雰囲気です。朝食は利用者の起きてきた時間に合わせるようにしてお出している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	生活のリズムとその日の体調により個々のペースを尊重して、柔軟な対応をしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	整容ができない方については職員が顔拭きタオルで拭かせて頂いたり歯磨きの声がけをしたり利用者の状態にあった支援をしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	コロナ禍の為に利用者と一緒に買い物に行けなくなりましたが食材を切ったり、盛り付けをして頂いたり、食器洗いをしてくださったりと手伝って頂いている。季節の行事食も楽しみながら食べて頂いている。	コロナ禍により利用者も一緒に行くことは出来なくなりましたが、調理専門職員が作る献立に基づいて食材の買い出しが行われ、手作りの料理が提供されている。また、「食事への評価や要望」などの聴き取りも行われ、日々の献立や行事食、季節食、おやつ作りなどに活かされている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事の摂取量や水分量のチェックをして健康状態をみています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後の歯磨きや入れ歯の洗浄をしている。できない方には声掛けをしたり職員が介助している。義歯の方は入歯入れに入れて毎日消毒をしている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	利用者一人一人の排泄リズムの把握に努めトイレで排泄して頂けるよう声掛けしている。	1人ひとりの排泄パターンを把握し、日中はトイレ排泄を原則とし、夜間は各人の状況に合わせた対応が行われており、適切な支援により、入居時、車椅子だった方がリハビリで歩けるようになり、トイレにも行けるようになった事例も見受けられる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分を多めにとっている。朝昼夕10時15時以外にも水分をとっていただくよう提供している。また生活リハビリにも取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴日を月曜と金曜日に決めているが利用者の体調等を考慮しながら入浴日以外でも入って頂いている。	週2回が原則で、時間に制限はなく、利用者の生活習慣に応じた入浴支援が行われており、職員2人体制での入浴やシャワー浴など、各人の状況に応じた対応もなされている。また、拒否者には職員がアイデアを出し合うなど、入浴を楽しんでいただけるように工夫されている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	生活リズムに対応し利用者が自分で入床している。介助が必要な方については職員がリズムを把握した上で寝て頂いている。室温や湿度などの管理にも努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	往診・訪看・通院記録等を読んだりミーティングにて職員が服薬情報を共有している。医師の指示のもと服薬管理をしている。薬は薬剤師が届けてくれ個人個人の入れ物に日付順に服薬できるよう収めてくれている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ゆっくり会話をする時間を作るよう努めている。また庭に畑を職員と作り野菜の収穫を楽しんでいる。お花もたくさん植えてあり四季が味わえる。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍の為外出できていないが近くの散歩・ドライブには出かけている。	外出制限が続く中、近隣の散歩に加えて、ウッドデッキでの外気浴や茶話会が行われたり、敷地内の畑で野菜作りや収穫を楽しまれたり、窓越しの花見を楽しむドライブなどが実施されている。また、事業所内でのレクリエーションや運動を増やし、少ない外出の補いとされている。	感染防止に注意を払い、近隣の散歩や、敷地内の畑での野菜作りなどが行われ、英気の養いに繋げておられますが、コロナの終息を見据えて、高齢者に適切な外出の機会を増やすことが期待されます。

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	コロナ禍の為買い物に連れて行けない。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者より電話をかけたいと訴えがあった場合施設内の電話を使用していただいている。携帯電話を持っている方もおり直接家族と電話をしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者の目線になり生活感を出している。季節の花を育てたり飾ったりしている。また金魚を育てており餌をあげるのが利用者の仕事になっている。冬は乾燥を防ぐため濡れタオルを毎日夜部屋に干している。	両ユニットを通して、職員の目が届き易く、季節ごとの作品や植物が飾られ、椅子やソファが置かれた共用空間では、集まったの会話や洗濯物たたみ、長い廊下を利用してのリハビリなど、利用者は好みの場所で、思いおもいに過ごされている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	長い廊下の3ヶ所にソファや椅子を置き気の合った方と日光浴をしたり会話をしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家庭的な雰囲気大切に、昔から愛用していた物や好みの物を持ってきて使って頂いている。布団も愛用していたものを使っていっしょやる方も多い。	職員手作りで利用者にゆかりのものをアレンジした表札がかけられている居室には、使い込まれた家具や好みの品々、家族の写真などを持ち込んでいただき、利用者の生活スタイルに合わせて、導線にも配慮された部屋が作られており、携帯電話の使用も可能である。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	歩行の不安定な方の使用や立ち上がりのリハビリの為に長い廊下には手すりを取り付けてある。全ての行動に職員がケアをするのではなくできないことに寄り添うように心掛けている。		

(別紙4(2))

事業所名:グループホーム エフビー深谷

目標達成計画

作成日: 令和 5年 3月 12日

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	35	年2回の避難訓練は実施しておりますが、毎年様々な災害が起きているので災害の種別による防災計画の必要性を重視し、具体的な内容を盛り込んだ計画書の作成及び訓練を行う必要がある。	火災や地震及び他の災害において安全にご利用者様が避難できる方法を職員全員が身につける。また、訓練を実施後の反省点や検証も職員全員で話し合う機会を設ける。	様々な災害に備えてのマニュアル作成。	12ヶ月
2	49	コロナ感染拡大の為、外出制限が厳しかったので日常的な外出支援ができていなかった。そのため体力も落ちてしまい、認知症も進んできているのではないかとと思われる。	コロナの終息を見据えて外出支援をしていく。	感染防止に注意を払い、現状できる範囲での外出支援を行っていく(近隣への散歩やドライブ等)。また、ご利用者様と一緒に敷地内での野菜作り及びお花を育てるなど楽しみを増やしていきたい。	12ヶ月
3					ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月

注) 項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。